

重点目標	具体的取組	主担当	実現状況の達成度判断基準	中間評価と今後の課題と改善策
1 授業改善を進め、個々の生徒に応じた指導による基礎・基本の定着を図る。	① 教材や指導方法を工夫し、わかりやすい丁寧な授業を実施する。	教務課 各教科	授業改善に取り組み、授業の内容が理解できる生徒の割合が A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 60%未満である	昨年に引き続き、“IT機器等を用い工夫した授業”を目標に全教科にわたって校内研究授業を行う。また、本時の学習のねらいや流れを示し、生徒自身が今何を学んでいるかしっかり把握させることに努める。“授業の目標や学習内容を理解できていると思う”は72%であった。さらなる授業改善に取り組む。 評価B
	② 生徒が基本的な授業態度で学習に集中し、主体的に取り組むようにする。	教務課 各教科	授業に積極的に取り組んでいると思う生徒の割合が、 A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 60%未満である	“授業に意欲的に参加している”は69%であった。“考える時間や発言の機会がある”(66%)を増やし、生徒が主体的に授業に取り組める授業改善が必要である。また、“定期試験には準備し、成績向上に努めている”は56%であった。授業をしっかりと受けて成績向上につなげる他、試験前の勉強の習慣を身に付けさせたい。 評価C
2 学校生活全般を通して、社会で必要なルールやマナーの定着を図る。	① 欠席・遅刻・早退を減らすために、生徒・保護者への働きかけを行う。	生徒指導課	意識的に欠席・遅刻・早退を減らすことができた生徒の割合が A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 60%未満である	9月の生徒向け調査により、意識して欠席・遅刻・早退を減らそうと取り組んだ生徒の割合は74%だったが、そのなかで実際に欠席・遅刻・早退を減らすことができた生徒の割合は、48%だった。今後も担任教諭や保護者と連携し、実際に欠席・遅刻・早退を減らすことができた生徒の割合が増えるように努めたい。 評価D
	② 各種教室（非行防止教室、薬物乱用防止教室等）の開催により規範意識を高めるとともに生徒会の活動を通してルールやマナーを守ることの大切さを意識させる。	生徒指導課	ルールやマナーを守って学校生活を送っている生徒の割合が A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 60%未満である	生徒の規範意識を高めるため、非行防止教室・薬物乱用防止教室防犯教室を実施した。 生徒の問題行動は4件発生し、特別指導を行い再発防止に努めている。 10月の生徒向け調査により、ルールやマナーを守って学校生活を送っていると答えた生徒の割合は48%、だいたい守っていると答えた生徒の割合は39%で、合計87%の生徒がルールやマナーを守っていると答えた。今後は、だいたい守っているという生徒の割合を減らし、ルールやマナーを守って学校生活を送っていると答える生徒の割合が増えるように取り組んでいきたい。 評価A

重点目標	具体的取組	主担当	実現状況の達成度判断基準	中間評価と今後の課題と改善策
3 キャリア教育を推進し、進路実現のためのロードマップの充実を図る。	① 就業やインターンシップ等の体験を通して、勤労観・職業観を育み、進路選択の能力を高める。	進路指導課	現在、就業していない生徒で、アルバイトやインターンシップに取り組んだ生徒の割合が A 80%以上である B 60%以上である C 40%以上である D 40%未満である	就業していなかった生徒15名のうち、アルバイトに取り組んだ者は5名で、インターンシップは希望者がいなかった。割合は33%であった。2年生以上の生徒については、当初よりほぼ就業していたため増加はわずかであった。1年生の就業が余り伸びなかった。進路講話や企業見学を行った際の生徒の感想は前向きなものが多かった。今後は面談等を通してアルバイトなどの就業に向けて個々の生徒の状況に応じたはたらきかけを行いたい。 評価D
	② 教育振興会と学校の繋がりを深めるため情報発信に努め、就職・アルバイトの支援を依頼する。	総務課	就職・就業体験を受け入れてもらった会員企業が A 7社以上である B 5社以上である C 3社以上である D 3社未満である	教育振興会総会の案内にあわせインターンシップ受入の可否を調査した。中能登町役場ほか8つの企業から受入可能との返事をいただいた。今年で2年目の取り組みであるが、会員企業の協力のおかげで職場見学を実施することができた。 評価 A
4 給食を通して望ましい食習慣を身に付けさせ、基本的な生活習慣の定着を図る。	① 食事のマナーやより良い食生活の習得のため、給食時に個別指導を行う。また、通信による情報提供を行う。	保健厚生課 教務課 各担任	給食摂取率が A 90%以上である B 80%以上である C 70%以上である D 70%未満である	毎日の給食摂取記録より、給食を食べていない生徒に対して理由を聞いたり、保護者あて「保健通信」で給食を食べよう促した。また、できるだけ1日2回の給食の時間を設けてもらって機会の確保を行った。しかし、4月当初は摂取率が81%あったが、9月までの平均摂取率は75%となった。 今後、更に給食を食べない生徒への指導が必要である。 評価 C